

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の『日記』 : 金田泰恒『天明四甲辰日記』

梶嶋, 政司

<https://doi.org/10.15017/5068148>

出版情報 : 九州文化史研究所紀要. 65, pp.79-136, 2022-03-30. Manuscript Library, Historical Records Section, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

史料紹介

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の『日記』

—金田泰恒『天明四甲辰日記』—

梶 嶋 政 司

解題

小稿では、豊前小倉藩領田川郡金田村金田泰恒の天明四年（一七八四）の日記を翻刻した。天明四年は、泰恒が金田手永大庄屋役に任命された年の翌年にあたり、正月からはじまる泰恒（日記のなかでは「壯助」という別称を自称）の大庄屋としての役動を一年間通して見ることができ。

天明四年の日記でとりわけ注目できる記事は、唯助の処遇に関する件である。唯助とは、天明三年七月十八日に金田手永大庄屋の役儀を解かれた人物である。唯助の跡をうけて金田手永の大庄屋となったのが「壯助」こと泰恒であった。一連の処遇を見ていくことで、唯助が大庄屋を罷免された理由について考えることができるのではないか。こうした関心を持ちつつ、以下では、大庄屋罷免後の唯助に対する処遇に関連する記事を簡単に紹介する。この紹介を以って解題にかえたい。

前年天明三年の日記⁽¹⁾によれば、泰恒は、大庄屋へ就任した後、唯助に対して大庄屋行政にかかる帳面や絵図の引き渡しを求めている。天明三年八月十二日には「目付衆」立ち会いのもと、唯助から泰恒方へ帳面が引き渡された。

この日、「村々子丑寅三ヶ年帳面御取上ニて、唯助取立帳・払詰帳ニ御引合、御しらへ」が行われていることから、唯助の大庄屋罷免の背景には年貢取立等に関する不正の嫌疑がかかっていたと推察することができる。翌八月十三日には、泰恒の私宅座敷で目付衆と「御役頭」の立ち合いのもと、唯助が「丑寅両年返号余札仕渡延引之事」・「寅生餅御米御用捨之所立戻無之事」・「船方御印通質入不届之事」の「奉誤之由受書」を指し出した。

唯助抱田地の件が最初に現れるのは、天明三年九月八日である。この日、「唯助抱持分之事二付、伊田郡屋へ寄合」があった。唯助抱田地跡式については郡方や村方で協議されている。天明四年の日記では、唯助の抱田地跡式に関する記事が多い。天明四年閏正月十七日には、「唯助田畠跡式しらへ帳」が作成され小倉へ提出された。同日、「御奉行様御書附ニて唯助慎罷出候得共、農業ニ付田甫え出候義御赦免、他村徘徊御差留」が仰せ付けられている。唯助は謹慎を申し渡されて他村徘徊は禁じられたが、農作業のために田へ出ることは許されたのである。

天明四年三月二十六日の記事では、唯助方男子の宗門が「浄喜寺旦那」に決まった。同年四月には唯助は「誤証文」を出している。これ以降も唯助一件の記事は散見する。同年十二月二十七日には「唯助其外御調べかゝり之者共」が「御片付」となった。

註

- (1) 梶嶋政司「豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の『日記』——金田泰恒『天明三癸卯日記』——」(『九州文化史研究所紀要』六四、二〇二一年)。
- (2) 田川郡の大庄屋が作成した帳面については、梶嶋政司「小倉藩の手永大庄屋制に関する史料論的考察」(『九州文化史研究所紀要』六二、二〇一九年)一七六頁参照。

本稿は、JSPS 科研費21K01107による研究成果の一部である。

凡例

一、本史料は、九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門が所蔵する六角家文書の『天明四甲辰日記』（六九―二〇）を翻刻したものである。

一、史料の翻刻にあたっては、漢字の旧字体（正字体）は、一部の固有名詞を除き現行の字体に改めた。

一、読みやすさを考慮して、適宜、読点と並列点を付した。

一、変体仮名な原則として平仮名に改めた。

一、虫損や汚損などによって判読不能の文字は□で示した。文字数が確定できない場合は、おおよその文字数を

「 」で示した。

一、見せ消ちは、「 」で示し、修正がある場合はルビで該当の文字を示した。

一、闕字・平出は、一文字分の空白で示した。

一、校訂者による注は、（ ）を用いてルビで示した。

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の『日記』

六角家文書六九十二〇『日記』（天明四年正月元日～一二月二七日）合綴

（縦帳合綴・表紙）（縦25・0 cm×横18・4 cm）

主「忠」信

天明 四 甲辰 日記

金田泰恒

天明四年甲辰正月元日 天氣晴明陽氣清明卯起盥嗽齒堅父母之拜礼頂盃吉書始

稻荷大明神ニ参拝、天下泰平、国家安穩、手永豊饒安全、次泰恒武運長久ニ御用を正直ニ奉勤仕事を奉祈

一 村々庄屋・方頭并頭百姓参礼、村中百姓参礼歡喜 奉拝頂候

一 今日、手永中一族并懇志之輩者節振舞

同二日 寒天雪降風烈敷

今日参礼之少し

同三日 天氣晴良

今日早天馬上ニて小倉出勤、香春町ニて仲真出会、歓談同行

一 南野太右衛門・伊田甚右衛門・金田壯助、其余は名代也

一 参かけ役頭ニ参礼、夫今木町辺礼方を勤、郡屋ニ着

同四日 天氣清明

正□時出勤、井上氏礼を勤

〔近江〕守様え御礼申上、夫より（平也）登城、四ツ時御礼を申上ル（平也）御名代犬甘兵庫様被為受（兩也）御礼候

西之方不絶町（斷也）辺迄礼仕舞、大坂屋ニおゐて御節被為下、難有事不可有際限奉存候

一 御礼後、御奉行様御宅え被為召、国中一同ニ参ル、御名代白石氏・荒瀬氏御逢之上、御勘定仕詰御祝儀并借入銀之義被仰渡候

正月五日 晴天八ツ時夕降雨

今日小倉引取、九ツ半時帰着、雨ニ不相

同六日 晴天

今日手永庄屋中初寄合御用談申述候

同七日 寒天雪降

今日、上野市郎兵衛・助右衛門方え年礼ニ参

一 御蔵方へ参礼

一 宮床天満宮ニ参詣

同八日 寒天

今日在宿

同九日 晴天

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

今日手永年礼ニ出ル、糸田ノ弓削田え參、助七方え止宿

同十日 晴天

今日弓削田ノ宮尾・後藤寺・河原弓・宮床、年礼相勤引取

同十一日 晴天

今日御用諸帳とぢ、鏡明開キ祝儀相整

同十二日

今日庄屋中寄合、御用談

正月十三日

庄屋中逗留、御用談

同十四日 晴天

同十五日 晴天和氣

今日、仲真中來賀、大庄屋中・子共役中、仙蔵、孫兵衛祝儀を受候、酒宴を饗

一 今日手代中出郡

同十六日 晴天和氣

今朝御用談相済、祝酒を饗ス

一 今「日」手代衆中、手永ノへ入込、時枝吉兵衛被參候

同十七日 晴天

今日、時枝氏え節振舞、御用談仕候

一 庄屋中寄合

同十八日 晴天

今日、下目附衆兩人木村元右衛門殿、荒瀬曾右衛門殿、留久全藏殿、金田村え被参、今夕深更同村へ再ひ来
臨止宿

同十九日 雨天、四ツ時分雪ニ成降強し

今日仲真中御借入銀之事ニ付、香春にて寄合之筈ニ候所、急ニ上今任へ寄合之筈ニ付、馬上にて参会、同方
へ止宿

一 今日、鼠池村勝「兵」衛、伊支須銀借之義ニ付、立岩村へ遣ス
正月二十日 雪烈敷降、寒甚し

今日、今任分仙七同道引取、寒氣甚相痛

一 助七・七郎兵衛、今日来り、返号帳算用ニ懸ル

同廿一日 寒天

今日終日返号帳算用、助七・七郎兵衛逗留

一 方頭四人招呼、唯助田地之義内談筋申付ル

一 伊田甚右衛門御借入銀之義ニ付、日田表え参

同廿二日 寒

〔今〕日返号帳算用仕上ケ候、庄屋中引取

同廿三日 雪降

同廿四日 雪降

同廿五日 晴天

今日返号算用村々へ仕渡申達候、庄屋中召寄御用談申達ル、庄屋中逗留

同廿六日 晴天

今日伊勢・高野御初穂奉納

一 庄屋中へ唯助田地之義申達、各引取

正月廿七日 降雨強し

今日不快二付休日

同廿八日 晴天

今日唯助田地窺筋ニ付南野氏迄参内談、今一応村方念を入相しらへ候様ニ付ニ付引取、藤五郎・伝七兩人召呼、今一応村方へ内談申入ル

一 今朝市郎兵衛も被参、面談之上出立、市郎兵衛八直ニ上野へ帰ル

同廿九日 晴天

一 昨日夕植木長七来賀

一 今朝市郎兵衛来ル、唯助田地之義内談

一 藤五郎・伝七滞留いたし、右田地村方え内談□段々熟談いたし候へ共、村方へ引受不申趣申出候、市郎兵衛、唯助方へ逗留

同晦日 晴天

今日仲真中下今任十輪院ニて寄合、唯助田地之義逐一申談何も来臨、用談相仕舞今任夕暮ニおよび引取

一 市郎兵衛をかへし再び地藏堂ニて密談、中村氏・南野氏之極意を承安心

閏正月朔日 天気晴和

稲荷宮、碧岩寺参拜、奉祈泰平

一 後藤寺家建願相済

一 今日閑暇

一 鷹之絵を得候、願行坊来

一 伊田熊七来

同二日 天気晴良和順

今日十三郎来、内談

一 村々御咎者御赦免願書案文認遣ス

一 森山氏・時枝氏、村内一件内意申遣ス

同三日 曇天九ツ頃今降雨風烈敷夜中迄大ニ降ル

一 御咎者御赦免之願書、時枝氏迄出ス

一 今日、鼠池勝兵衛今相招候ニ付、定香を連参ル、今夕止宿

一 御借入之義勝兵衛へ談

同四日 寒天雪少し降

今日白石太次右衛門殿来臨、抜米義を談する

一 昨三日御奉行様御替り被成候宿継之御状来る

一 伊藤勘解由様御郡代被蒙仰候

閏正月五日 晴天

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

今日御奉行様御歛出津、仲真中一同二罷出候、参かけ役頭へ罷出ル

同六日 晴天

今早朝役頭へ罷出掛御目、御奉行様へ罷出御歛申上、伊藤筑摩様へ御機嫌窺ニ出ル

一 郡屋へ帰居候処、御奉行様御逢之由急ニ申参、御宅へ罷出御逢被下、御仕居之義蒙仰

一 御手代衆白石氏・森山氏・時枝氏郡屋へ相招キ、唯助田地之義、南野氏・猪膝氏并栄助对座之上内意申述ル

但手代中存念今一応市郎兵衛・唯助・村方之存念根を押候様被申候ニ付、其趣ニ治定

同□^七日 晴天

一 今早朝森山氏え参、一件相談置

一 今日一同引取帰かけ香春ニて談合、直ニ上今任え参、上野氏・中村氏相招キ田地之義熟談ニおよぶ

一 太郎兵衛を上今任え招呼、村方へ今一応根押申遣ス

同七日^八 晴天甚寒し

今朝甚右衛門殿方ニて右田地之義上野氏え仲真中今談合ニて引取

一 今日上野助右衛門、猪膝岩右衛門も唯助方え寄合也

閏正月九日 晴天

一 今日庄屋中、一件為見舞来集

一 今朝村方唯助方へ召寄熟談之由ニて、唯助田地受持ニて村方も出作分世話筋受合候由也

一 唯助方并村方今書物受取置

右之趣今夕九ツ時今飛脚ニて手代中迄申出ル

一 方頭・百姓六七人召寄存寄申達ル

同十日 雨天風強く降甚川水増

一 今日御用銀人別割符百目以上之人數召寄存申達候、村々庄屋中来集

一 小倉飛脚今夕九ツ時分歸ル

同十一日 雨天

小倉時枝氏返答之趣、庄屋・方頭之申達ル

一 成竹類助方へ参居候処、往來を人見之者共悪口なし通るを聞、多藏第一二聞へ候

閏正月十二日 曇天夕方方降雨

今日閑暇

同十三日 雨天

一 今日後藤寺町宝屋札壹枚質入捨書入濟相渡

同十四日 晴天風立甚寒し

被下御酒頂戴二付惣代出津

一 参かけ常安二立寄南野氏之内談、夫方白石定七殿出郡二付米清方へ見舞内談、小倉着御役頭へ罷出候得

共、勝野氏之御寄合二付御同方へ参候得共、御用御取込二付無御逢

同十五日 晴天和順

今早朝役頭へ罷出掛御目、夫方御役所之罷出御酒頂戴、御奉行様へ御礼申上御酒肴持せ引取、酒肴共二米清

方へ預置

但御酒三樽 但四斗入

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

鯛拾八連 折二積被下

一時枝氏、唯助田地跡色調(忒)へ二付香春迄出郡

閏正月十七日 晴天

今日時枝氏金田村へ入込唯助田畠跡式調へ、助七・七郎兵衛を招呼調被申候

一 今日上野市郎兵衛へ右之趣申遣ス

一 此度唯助跡式しらへ二壯助一向相拘り不申事

一 今夕上野栄助来ル

同十七日 晴天

昨日申ノ刻御役頭分宿繼ニテ御状御仕出被成、御奉行様御書附ニテ唯助慎罷出候得共、農業ニ付田甫え出候義御赦免、他村徘徊御差留被仰付候ニ付、今早朝時枝氏一所ニ唯助へ申達ル

一 今日上野助右衛門、唯助跡式しらへ二付被参候

一 唯助田畠跡式しらへ帳面時枝氏仕立被申候て小倉へ被指出候、壯助印形いたし候様被申候ニ付、帳面調へ方ニ相拘り不申ニ付断申述候得共、是非印形いたし候様重て被申候ニ付判いたし候

一 同人抱持之田、伊方村分・上野村分・大熊村分・宮床村分・下糸田村分帳面ニ除ケ有之候

同十八日

閏正月十九日

同二十日

同廿一日 晴天夜二入降雨

今日御役頭香春迄御出郡ニ付、香春へ出ル

同二十二日 雨天

今日庄屋中香春へ招呼、御仕居方調へ二掛ル

同二十三日 雨天

今日香春を引取

閏正月廿四日 晴天

同廿五日

同廿六日 晴天

今日大くまを糸田・後藤寺迄参

同廿七日 晴天

今日後藤寺を引取

同廿八日 晴天

今日弁上を枝村年礼に参

同廿九日晴天

今日時枝氏香春へ引取

一 太兵衛、弓削田へ引越

二月朔日 寒天雪降

社参奉祈天下泰平、次二村々へ諸用申触候

一 弓削田_下村_弓田村藤次郎役儀指留申付

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の『日記』

一 河原弓削田村傳三郎と申者、田地入組之義願出ル

二月二日 晴天

助七初て金田村え入込、此方にて祝儀之興筵

一 庄屋中寄合村々仕居方并借立之相談并村々飢食一村限りニ取救候様申付

一 藤五郎へ傳三郎願出之事申達ル

同三日 雨天

閑暇

今日(書)今洪齋寺様三十三回御忌廣寿山にて御法事、上野市郎兵衛惣代ニ参

同四日 雨天

問暇

同五日 雨天

今日洪齋寺(書)拜礼ニ碧岩寺え参詣

同六日 晴天

今日助七来り、村方えメ方示申渡

一 今日筑前山野村送り物送り返かへし候ニ付注進申上候

一 役頭今唯助宗門之義書付指出候様被仰下候ニ付申達候処、夜四ツ時分書付出来候ニ付、今夕不出

同七日 晴天

今日唯助方(書)之書付右書いたし役頭え指出

一 金田手永大庄屋役之事一通り書付出ス

二月八日 晴天

今日上野市郎兵衛来臨、公私内用酒を饗、夕方唯助方之様参り逗留

同九日 晴天 初午祭礼神楽あり

同十日 晴天

今日助七金田村へ引移

一 河原弓削田法□寺、筑前岩崎村へ参、帰かけ入水谷にて鶴を拾、庄屋本へ被指出候二付、今日直二小倉へ指出ス

同十一日 晴天

同十二日 晴天 夕方夕降雨

今日太兵衛・七郎兵衛・助七召寄、金田村外仕詰算用二掛ル

同十三日 曇天昼頃夕快晴

今日右算用仕詰相仕舞

一 河原弓拾ひ鶴御用二相立不申、拾ひ主へ被下候二付、直二持せ遣ス

同十四日 晴天

今日座敷葺かへ、後藤寺九郎兵衛参ル

二月十五日 晴天

早朝社参飯後夕糸田・弓削田・河原弓之方荒発麦作見分、河原弓へ止宿

同十六日 晴天晝前夕少し降雨

今日拝借銭受取高小倉へ出ス

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

一 拝借受取惣代猪膝常助殿被相勤候

同十七日 晴天

今日河原弓藤五郎参、同村傳三郎願筋申出ル

助七も今日弓削田分引取

同十八日 晴天

今日上野市郎兵衛借方口入頼之義二付、弁上文内相招キ申談

一 拝借札猪膝へ受取人、方頭十三郎を遣ス

同十九日 晴天暖和

今日村々拝借方借渡相済大ニ安心

一 後藤寺九郎右衛門来ル

一 藤五郎来ル、傳三郎申出之義窺出ル

一 善次郎事、庄右衛門・干助掛合筋窺出ル

同二十日 晴天

今日赤池御藏方へ見舞、奥御番所共二一樽ツ、持参いたし候、夫分萬屋にて上野市郎兵衛出會、内談筋致之、夜五ツ半時分かへる

一 成竹前にて米式駄見当ル、金田村甚作義麿手形仕立、米を抜き候事、早速助七手前しらへ二掛ル

一 植木長七来ル、止宿

二月廿一日 晴天

助七、弓削田分かへる、抜米之義僉議二掛ル

同廿二日 晴天

今日下今任にて仲真中寄合ニ参

同廿三日 晴天

同廿四日 雨天

専内を太宰府二代参

同廿五日 雨天午時分晴る

川江主税殿筑前通今日被参候

大東榮左衛門同道也

同廿六日 晴天

来客逗留

同廿七日 晴天

客同道糸田溜井ニ見物ニ参

二月廿八日 晴天

今日川江氏下河原迄引取

同廿九日 晴天

同晦日 晴天

今日河原弓削田村由藏不埒之次第、藤五郎・善五郎兩人参候て内意之趣申出ル

一 今夕鷄鳴過同村方頭七右衛門参、筑前掛合之義申出ル

一 今日御役頭・御手代中共ニ出郡

三月朔日 雨天風立

於香春宮五穀成就御祈禱被仰出勤、無指間相済

同二日 雨天

今日御茶屋にて外人別切符役頭御判申受、仲真中談合相済夕方引取

一 子共役御立被成候御内意あり

同三日 晴天

社参奉祈泰平家運増長候

三月四日 晴天

今日時枝氏金田村迄被参少上郎え被打廻候

一 助七弓削田へ参、七郎兵衛・太兵衛、由蔵事二付参

一 今日役頭小倉御引取

同五日 晴天

時枝氏金田村迄引取

一 今日

同六日 晴天

時枝氏小倉引取

一 今日家内灸治快然

同七日 晴天

今日庄屋中召寄御用談、夜二人皆々引取

同八日 雨天

今日香春今高野村太平次訴状しらへ之義二付、伊田甚右衛門殿今申参候二付、九ツ時今香春米屋清右衛門方
え参ル

一 森山氏・池田氏・森氏・伊田各寄合之上にて太平次しらへニ掛ル、同人訴状之趣白状ニ及

訴状之趣別紙ニひかへ有り

閏正月朔日目安二書入候事

同廿五日御茶屋え御郡様え出ス

三月朔日同所え御郡様え出ス

右三度訴状之趣白状ニ及ふ

一 今夕太平次欠落所々相尋候へ共、行衛不知

三月九日 曇天

米清方へ逗留、太平次行衛所々相しらへ候

同十日 晴天

今朝夜内九日之日附にて太平次次第小倉え御注進申出ル

今日所々相尋候事

同十一日 晴天

今日九ツ時分太平次行衛相知候二付、香春町今追手を出ス

同十二日 晴天

今日四ツ時筑前嘉麻郡小野谷村今にて太平次を召捕連かへる

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

一 右訴状之趣口書致させ小倉へ御注進申上候、夜二入引取

一 今日白石定七殿家内香春へ被参候

一 今日上糸田村分訴状ヲ米清方迄出ス、使状持

三月十三日 晴天

同十四日 晴天

今日役頭・御手代中出郡

同十五日 晴天

今早朝香春神幸ニ付出勤、役頭并石田十助殿え掛御目候、仲真中寄合

同十六日 晴天

今日神幸無指支相済、夜二入引取候

同十七日 晴天

今日時枝吉兵衛殿被参候ニ付、同道にて夕方分上糸田村しらへ二入込

一 上糸田村分方頭喜左衛門ニ対訴状ケ状書指出候ニ付、此間分下しらへ二庄屋中をかけ置、今夕再応庄屋中
分しらへさせ候得共、承引納得無之二付、卯兵衛・喜左衛門手前おも相調へ候事

一 今朝大くま善兵衛、河原弓削田村由蔵事ニ付、此間分世話取計之義申出

一 同人え上糸田出入之義、村方納得筋取扱申聞候、同人も上糸田え参ル

一 今夕上糸田止宿

三月
四月十八日 晴天

今日上糸田百姓五人吉十郎・吉兵衛・九右衛門・平右衛門・直平招呼、ケ状之趣一々察当申付ル

一 今夕夜ニ入引取

一 今夕庄屋中迄村方誤之段証文を以誤出候由にて、刃兵衛ノ申出ルニ付内済ニ極ル

三月十九日 晴天

役頭前夕添田泊り、今日鮎かへりニ御立寄、同村昼休、森ヶ坪通拙宅御泊りニ付、堺え罷出ル

一 乙女井手取繕掛御目候

一 森山為七・森類左衛門御供にて被參候

三月二十日 晴天

今日手永内居り合筋御内意有之二付申上、御機嫌能御出立被成候

今日上野御昼休、香春へ御引取

一 森山氏役頭ノ被指置、中糸田村清右衛門義無主地居り合筋ニ付誹謗之趣承及候ニ付、召寄察当一々申附候

所重々誤出候事

三月廿一日 晴天

今日役頭・御手代中共ニ御引取

一 宗門帳下地相しらへ認方申附

一 今日上野助右衛門新所前鮎かり

同廿二日 晴天

今日後藤寺え參、夫ノ上弓削田村太兵衛へ役儀祝義ニ參止宿

同廿三日 晴天

今日御殺生方御場改ニ付御出、糸田昼休

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の『日記』

御殺生方 田中健右衛門殿

下鳥見衆 六人

夕方南木堺にて別れ帰ル

一 御代官改御立被成候由にて、御役頭御状参ル

妹尾利右衛門様廿二日御役儀被蒙仰候

三月廿四日 晴天

御歎物代小倉出津、大庄屋惣代金田壯助、子供役惣代猪膝岩右衛門、手永小庄屋耆人ツ、出ル

一 今日四ツ時分出立、七ツ時分小倉へ着、御歎申上候

同廿五日 晴天夕方方降雨上潤二宜

所々御歎申上、九ツ半時分引取

一 帰かけ南野氏へ参、何角申談

一 御山奉行所へも参

同廿六日 晴天

唯助方宗門之義ニ付常立寺、助七方え相招キ候処、唯助方男子浄喜寺旦那治定之由ニ付、其趣御注進申上候

一 御代官へも皆発目録を出ス

同廿七日 晴天

同廿八日 晴天

今日親仁下堺高法参り

今日上野仙七御用ニ付朔日ニ助右衛門召連出津仕候様申上候被仰付由申参ル

同廿九日 晴天

今日上野市郎兵衛被參、唯助方へ酒肴を贈り見舞候

四月朔日 晴天社參寺集仕候

今日今碧岩寺へ大般若經^(セ)転読始ル

一 安藤瀧右衛門殿皆発見分、金田村へ立寄被申候

同二日 晴天

今日上野え仙七義二付參逗留

一 仙七義今日御用、金田手永子共役被仰付候、夜二入引取

同三日 晴天八ツ時分小雨降

今日上野へ引取

同四日 晴天

今日仙七一先入込庄屋中寄合酒を饗ス

同五日 晴天

今日仙七上野へ參ル

同六日 晴天

おさよ後藤寺二行

同七日 晴天

同八日 晴天^兩風強し川水相増

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の『日記』

今早朝三人香春へ参ル

一 宗門御奉行所昨夕帆柱泊り、今日彦山参詣

上津野昼休、香春着、深更ニおよぶ

今日両御役頭御出郡

四月九日 雨天四ツ時分快晴

今日宗門御改首尾能相濟、夫分御茶屋にて御代官様御見届にて村々人別切符渡ル

宗門方 奉行 高橋七郎左衛門

中目附 小添武右衛門

郡目附 石田十助

一 昨日金田村十次郎、中津郡大村馬代掛合相調候様被仰付候

同日 晴天

今日分金田村御詮儀筋二付、御手代中三人御差遣被成、四ツ時分入込二付、春以来村方へ申聞候

演説書お以申述ル

調へ之次第 内調へ 最初 十三郎

二番 利平

三番 孫四郎

四番 甚作

×

十日夜庭え出ル 武右衛門

善助

武右衛門

此者村方企之次第頭取三人之義口問ニ申出ル

善助

此者申出分かね打擲□企申出候武右衛門同様

文作

此者寄合之宿いたし候ニ付痛メラレ候

四月十一日 晴天

今夕御代官様猪膝御泊り

善助

此者□問偽り御しらへ隙取候

九郎七

此者夜ニ入少々痛メラレ其後内証にて不残白状ニおよひ候、其後被召出一々白状

一 今夕白石太次右衛門殿上野々被參候

但九郎七暮過迄二済

文作

〔此者徒党宿連判名附之筆取ニ付段々被相調候〕

四月十二日 晴天

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

長作

此者早朝分しらへ、拷問有之、発頭之趣申出ル、白状也

甚作

此者御手代中分急度可被相調二付、方頭役取上ケ候様被申候二付、其段相断り、内証にて猪膝氏寄合問候得共、しかと相分り義不申出候

一 今夕伊田甚右衛門殿へ御手代中分被申遣候

四月十四日^三 晴天

今早朝甚右衛門殿被参候

甚作

此者再問二付、企之次第逐一申出ル

右御しらへ一通り相分り候処、唯助掛り合之義有之二付、発頭三人之者口書写を以御手代中分七郎兵衛・善次郎を以被相尋候処、素骨之返答有之、直ニ此方へ参候上、壮助へ段々恨ミ口有之二付、伊田・猪膝兩人分

急ニ上野・楠・中村へ飛脚にて被申遣候

一 唯助名前御出不被下様段々御手代中へ相當候へ共決して承引無之候

一 今夕九ツ時分南野文右衛門殿被参候

同十五日^四 晴天夜ニ入降雨

今四ツ時分中村平兵衛殿被参候

一 村中徒党之者共誤証文を以當出ル

一 唯助名前一件、仲真中相頼さまく相當候へ共、手代中決して承引無之

一 右御營筋二付白石定七殿暮方夕急ニ小倉え引取、内窺被申上候得共、唯助名前出不申様之御營筋決て相濟不申、急度しらへ詰候様苦々敷被仰付候
四月十五日雨天

今日上野市郎兵衛殿へ仲真中夕段々指詰メ

一 暮かた白石定七殿引取被申候、小倉之御時合御調へ、唯助名前を除ケ候義不相叶、明白ニ□書仕せ候様ニ被仰付候

一 市郎兵衛を以段々指詰

同十六日 晴天

今日段々指詰候処、唯助義弥誤出候て誤証文指出ス

一 人見多藏・仙助・又七三人招呼、悪口之義詮儀、三人之者共誤出証文受取

一 頭取四人召寄、口書之趣急度指詰申聞ル

一 七ツ時分夕手代中・大庄屋中皆々引取

同十七日 晴天

今日川筋見分、仙七同道大熊・宮床・河原弓・糸田之様ニ引取

一 今日手代中小倉引取

同十八日 晴天

今日閑暇所々礼状遣ス

一 仙七上野へ参

同十九日 晴天

今日閑暇

同廿日 晴天九ツ時分分小雨降、雨二入降雨

今四ツ時分時枝吉兵衛殿、金田迄着、昨十九日役頭分御書附ニて被仰出、御詮儀掛り之者共一々御吟味之上、五人組、一族共へ御預被仰付候

一 上野助右衛門・同栄助、唯助義ニ付参ル

四月廿一日 雨天

時枝氏今日引取

一 乙女井手堰之由ニ付仙七出勤今日ハ延引

同廿二日 晴天今夕深更分大二降

今日乙女井手、大くま溝堀仕舞

一 今夕分寿光院殿七回忌追善、一族集ル

同廿三日 雨天川水出ル

今日迄寿光院殿追善相済

同廿四日 晴天

今日一族引取

今夕時枝氏香春迄出郡、夜中ニ参候様被申越候

同廿五日 小雨降

今朝未明分香春へ参り金田村十次郎、中津郡大村掛合之馬代之義ニ付口書相認させ候て時枝氏え相渡、夜ニ入助七・孫四郎・十次郎召連引取

四月廿六日 晴天

弁城村文内ノ招二付、助七同道参、上野ノ何も被参寄合歛飲止宿

同廿七日 晴天

今日弁城ノ九ツ時分引取

同廿八日 晴天

同廿九日 晴天風立

同晦日 晴天風立

五月朔日 晴天風立

早朝社参武運長久当月安全を奉祈願

同二日 夜中ノ降雨宜潤也、四ツ時ノ小雨

今日吉辰ニテ早稲植加勢人大勢有之、壹町五反余植付候

一 今日中津郡大村ノ金田村十次郎引取候牛受取人庄屋兵内ノ助七へ紙面を以申越相渡候

五月三日 曇天

村々御根付之義、両役頭へ御注進申上候

同四日 雨天潤雨

今日金田村反甫一順見分

同五日 小雨降

社参礼敬

一 役頭ふ、仲津郡大村ふ又々口書指出候ニ付御差越被成候ニ付、仙七・助七寄合、十次郎手前相調へ口書仕立候処、先達て之口書ニ相違之義無之候

同六日 晴天今夕深更ふ降雨

今日ふ御根付見分、仙七同道廻村、糸田ふ鼠池・見立・弓削田ニ參、善次郎方え招請ニ付、同方え止宿
一金田村十次郎、大村受書仕立、時枝氏迄今日仕出ス

同七日 曇天川水相増

弓削田・宮尾見分、同村え止宿

五月八日 晴天

今日後藤寺にて村々之様子小倉え注進申上候、下糸田・鼠池・宮床・後藤寺今日迄皆作御届申上候

一 河原弓ふにて泰庵(マ)請招ニ付見舞、夜ニ入宮床え立寄糸田三右衛門え立寄曉方帰宿

同九日 曇天

今日内作皆作

同十日 晴天

同十一日 晴天

今日金田村さなほり

一 今夕九ツ時分上伊田ふ飛脚にて、同村馬筑前黒川村へ押へ取候義、河原弓削田由藏掛り合之義願書にて申出、伊田氏ふ掛合參ル

同十二日 大雨出水也、川水満水下ミ口揚る

但弁城山・福智山之大雨上筋降不強、仍て川水格別洪水ニあらず

今日閑暇、成竹類助方ニ遊行

一 助七御根付間弓削田え逗留、今朝引取

同十三日 雨天

今日時枝氏香春今金田迄入込也

五月十四日 雨天

時枝今日今廻村、拝借直判見届也

一 今日上野市郎兵衛殿相招キ唯助一件相談候

同十五日 雨天

今日金田村御調へ一件二付伊田氏南野氏兩人糒村へ寄合、上野氏同道參

一

同十六日 雨天

今日仙七上野今帰ル

同十七日小雨四ツ時今晴ル

今朝白石氏・上野助右衛門神崎へ止宿二付見廻、金田村一件営筋相頼候

同十八日 晴天

同十九日 晴天

今日御役頭香春御出郡二付、仲真中申合方有之二付早く香春へ出ル

一 唯助一件二付仲真中評儀之上御手代衆中相頼御営申上候

同二十日雨天

御役頭今日上野御休、金田御泊り、村々庄屋中御逢被成候

一 白石太次右衛門殿、森類左衛門殿、時枝氏三人より金田一件段々御趣意合、村々庄屋中并方頭へ被申達候
処、今夕庄屋中打寄相調へ候上、村中一般重々誤出御歎キ書付を以申出候事

五月廿二日 晴天

今朝右三人衆中今金田村御再調之御歎キ被申出候所、誤書役所へ御取被成下候

一 今日宮尾森ヶ坪通猪膝手永へ御引移り被成候、川崎御休、中元寺御泊り也

一 拙子引取かけ後藤寺へ立寄糸田三右衛門方へ立寄深更引取

同廿二日 大雨出水川水地水二八尺余之出水也

一 昨日の上野氏兩人唯助方え被參、金田村一件唯助内存極々しらへ方被致候て、極々誤出候趣口書誤証文、

一族衆三人奥判にて被出候事

一 今夕九ツ時分、岩右衛門殿印判、田原今飛脚にて參候二付受取

五月廿三日 大雨天暮方今別て烈敷夜中又々出水

一 唯助書付今朝時枝氏え出ス

一 時枝氏今日香春迄引取、助七義も香春迄參ル

同廿四日 大雨出水

金田一件御手代衆中え為挨拶仙七香春迄指出、御役頭御機嫌奉窺

一 今夕方上伊田村馬掛合之義伊田甚右衛門殿今烈敷申參候二付、河原弓削田へ申遣ス

一 日乞御祈禱之義被仰下候

同廿五日 大雨

今日今稻荷社御祈禱執行、今朝急ニ糸田・宮尾社人中へ遣、勤之段申遣ス、兩社御勸請申上候

一 今日藤五郎并方頭召呼、上伊田馬代村役三人ニテ相弁候様申付候

一時枝氏御祈禱ニ付金田村へ入込也

同廿六日 曇天小雨夜ニ入大雨

但四ツ時分八ツ時分迄晴天

今日社頭參籠

五月廿七日 曇天小雨降夕方分夜中終夜大雨

今日迄御祈禱満日社參御初穂左之通

一 稻荷社頭 札六匁

一 春日社頭 同四匁

一 金田村社頭 同四匁

ノ拾四匁也

今日時枝氏香春迄引取

同廿八日 朝分四ツ過迄大雨九ツ時分分晴天晴上り夜ニ入又々小雨

今日出水、東川九尺余之出水也、西川筋近來之大水川筋村々下ミ反甫水押渡し、金田村下反甫一面ニ押渡、

下ミ屋敷ニハ水押入候程也

一 今日今宮尾春日宮ニテ日和乞御祈禱執行申達、村々庄屋・方頭・百姓惣代ニ社參申触候

但社頭諸入目當時きり申触之事

同廿九日 朝之内九ツ時分迄曇天八ツ時分晴

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

但今日金田・糸田辺は小雨降候由、宮尾は不降

今日早朝夕宮尾春日社え参詣、庄屋中村々方頭并百姓惣代参籠祈願、今日夕晴天ニ相成神威有り

此度御祈禱入目当時きり立

御初穂 札四匁 春日社

同三匁 稻荷宮

同壹匁 金村社

メ

右は壯助取替神納

一 今日暮ニ及び引取

六月朔日 晴天

社参奉祈天下泰平手永安穩武運長久

一 今日迄ニ宮尾社結願

〔^{備忘}高野村太平次出籠被仰付候〕

同二日 晴天今夕夜中少し降雨

今日村々川筋破損書付を出ス

一 今日土用ニ入

一 金田村たたり取繕見分ニ参ル

同三日 今日九ツ時分夕白雨降七ツ時分晴る

今日穢多十七人田の草加勢ニ来ル

一 夕方方類助方へ参ル

〔備心〕
「備勇藏子共役被仰付候」

同四日 曇天今日中ハ不降

今日今小倉祇園社ニテ 上今日乞御祈祷被仰付候

同五日 大雨昨夕夜中今日中降川水出水

六月六日 雨天

今日郡目衆兩人金田村へ被立寄候て弁城泊り

一 今日金田村方頭忠助え申附ル

同七日 雨天

今日急ニ御奉行様香春宮御参詣ニ付、御郡様共ニ御出郡、香春宮ニテ御通夜也

一 今夕五ツ時分香春へ出勤

同八日 晴天今日中降雨なし

今日御奉行様仲津郡大村之様御引移被遊候、御郡様小倉へ御引取拙者共引取候事

同九日 大雨出水前夜分甚敷降

同十日 雨天九ツ過分晴天

今日今糸田金村宮日和乞御祈祷相頼、庄屋中・方頭人ツ、百姓惣代表人ツ、日籠り、両役、庄屋中ハ直

ニ通夜仕候事

同十一日 晴天

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

今日酉年賦御土蔵被下預手形三枚糸田後藤寺之様ニ指遣候

同十二日 晴天

今日金村宮願込満願御感応あり

一時枝氏金田村へ入込此方え止宿賄

一類助義船方拝借納方ニ付小倉へ出ル

六月十三日 晴天七ツ時分曇、南風烈し

時枝氏今日分拙宅分直ニ廻村ニ被參候

一今夕夜四ツ時分降雨

同十四日 前夕四ツ時分降雨、丑ノ刻至て之大雨ニて終夜今朝迄大降洪水也、五ツ時分晴日中ハ降雨無之

一此度之洪水東川は寅七月廿二日之水ニ式尺程少し、西川筋は寅水分太し、村々破損所別紙書付有り

一両御役頭へ右之次第御注進申上候

一今夕夜中少し雨降

一今夕時枝氏、此方止宿賄

同十五日 晴天曇四ツ時分迄小雨降ル

今日金田西筋大くま・糸田・宮床・河原弓削田・宮尾・弓削田迄見分、七郎兵衛方へ止宿

同十六日 晴天今日分暑中之天気快然也

今日弓削田分引取

同十七日 晴天暑甚し

今日破損所積書、急場取繕夫積書付共ニ役頭え差出候

同十八日 晴天暑甚し

今日破損所書付之ひかへ役頭ニ出ス

一 大くま・糸田急場取繕見分ニ付仙七・助七同道ニて罷出、鼠池ニ参止宿

一 猪膝常助殿方隠居宿気見分ニ肴を持せ遣ス

六月十九日 晴天暑甚し今夕涼気催ス

今日鼠池・見立野合見分夕かた引取

同二十日 晴天風騒しく夜分冷気あり

糸田祇園会、専内・仙七参ル

同廿一日 晴天風騒々敷

今日急場取繕見積ニ付庄屋中糸田え寄合評儀相究候事

右普請評儀ニ付壮助糸田迄出浮、九ツ時参り八ツ時分引取

同廿二日 晴天風騒々敷

今日猪膝常助殿方御親父不幸ニ付吊ニ参、後藤寺迄帰り止宿

同廿三日 晴天風騒々敷

今日上野兩人同道ニて法光寺へ見舞、止宿

同廿四日 晴天風騒々敷

今日八ツ時帰宿

六月廿五日 折節雨降風騒々敷強し

今日上納麦取立帳仕立、早朝夕村々飛脚ニて指廻候

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

一 糸田村式願踊願書役頭え指出候

一 今日時枝吉兵衛普請ニ付出郡也

同廿六日 打降風強し

今日御代官様御出郡、上納麦高原御蔵御取納ニ付、仙七香春迄指出候事

一 今日諸帳面吟味、村々追出米之義申触候

同廿七日 朝之内晴天四ツ時降雨八ツ時降雨

今日赤池御蔵上納麦ニ付、御代官様御出勤ニ付罷出ル、御代官所香春へ御引取

一 麦上納無逗相濟候

同廿八日 晴天甚暑夕五ツ時降雨白雨模様也

今日御郡様御出郡ニ付香春へ罷出、仲真中寄合、拝借方申談ニ掛ル

一 草手喰麦拝借御願書差出ス

一 糸田村河原田普請相濟、時枝氏、仙七出勤

同廿九日 晴天甚暑

今日無事間暇也

六月晦日 晴天甚暑

金田村社頭にて稲葉祭り有り

一 糸田村式願踊目附青柳十内・植田恒吉、押へ森山為七・池田儀右衛門、壯助義夕方々参り、翌朝未明ニ引取

七月朔日 晴天甚暑

今日伊田手永庄屋兩人、仙七祝儀ニ來、柿原長七來祝酒を興応ス

一 上野助右衛門家内并市郎家内參ル、酒ヲ興応ス

一 今終日遊慰間暇也

同二日 晴天甚暑

今日秋前申談并出米しらへ、庄屋寄合申談ル、庄屋中暮方引取

一 穗揃帳今日出ス

同三日 晴天甚暑

今日出米帳寄せ相究候

同四日 晴天

同五日 晴天

七月六日 晴天

同七日 晴天

今日下今任十輪院え出米かたニ付寄合ニ參、上今任祝儀、上野衆一同ニ參ル、伊甚方止宿

同八日 晴天炎暑

今日添田え參ル、伊田氏、仙七同道也、添田へ止宿

同九日晴天暑

八ツ過分引取伊原村迄送り有り、同所遊宴暮ニ及び上今任へ着、興応ニ預り深更帰着

同十日 晴天暑

今日仙七小倉え出ス

一 大小修覆料札百拾七匁、仙七ニ持せ川江氏え遣ス

一 名替願書南野氏相頼出ス

一 伊田氏出津ニ付御地合之義頼遣ス、名改印判改之義頼遣ス

一 酒造之儀頼遣ス

七月十一日 晴天

今日金田村反甫一編虫氣之事見分ニ參、下反甫助七同道ニて參

同十二日 晴天

今日於稻荷宮三社御勸請虫風退除御祈祷、庄屋中・方頭・百姓惣代參ル

一 拙宅ニて庄屋中寄合、御用筋申談ル

同十三日 晴天

今日村々博勞メリかた、牛馬取扱メリかた之義申触候

一 仙七夜ニ入四ツ時引取

同十四日 晴天九ツ時今白雨模様降雨

弓削田四ヶ村存分潤、糸田下り潤薄し

一 糸田村戌拜借表証文入替、伊田氏え飛脚ニて遣ス

同十五日 晴天夜ニ入四ツ時今四ツ時過迄大白雨ニて十分相潤恐悦至極也

七月十六日 晴天今日所々白雨模様ながら金田ハ不降、今夕鷄鳴頃今地雨模様、大雨降田方虫おも打流し候程也、

恐悦之潤雨也

同十七日 前夜夕降雨、今朝別て強雨

同十八日 晴天

同十九日 晴天今日伊田辺ハ不降、金田村大二電鳴也

一 今日下今任十輪院寄合、夫上伊田角力え見物ニ罷趣、暮ニ及び帰ル

同廿日 晴天

今日役頭御出勤ニ付香春へ罷出、後藤寺迄參止宿

同廿一日 晴天

御代參ニ付岩峠へ出勤、夫夕猪膝ニて寄合、拝借方御用談被仰付候、同所止宿、諸見物あり

同廿二日 晴天

今日御役頭御立後、皆々出立上野氏同道ニて後藤寺迄引取止宿

同廿三日 晴天

今日上野氏同道糸田之様幸田方え立寄候て大くま普請所え出勤、宿本へ引取

一 今夕河原弓削田博勞事ニ付庄屋中申談

七月廿四日 晴天風立

今日河原弓削田善五郎・七右衛門兩人え申付方、新助・太兵衛を以申付ル、双方弁かた内濟之段申出候ニ付、

表立聞通り不申分ニ事を濟ス

一 筑前久野衛名美(七)一昨日今来ル

一 大くま普請今日成就

同廿五日 晴天風立

今日金田村道筋取繕二付出勤

一 同村牛馬願解御願書差出ス、御代官所へも御届申上候

一 室見池干候由申出候二付、時枝氏同道にて参候て一寸見物、直ニ普請場之様ニ引取

一 右池え鯉一ツ、鮒・なます十枚計居候を、専内取かへり候二付、所々配分遣し、此方え鯉一ツ、鮒一ツ取候て、家内并ニ左之人数にて楽む、尤魚活キ候趣ニ候へは、生置候筈之処、直ニお分にて捨り候所也

時枝氏・助七・定香其外ハ不残配分、一ツも留置不申候事

七月廿六日 晴天風騒敷

今日金田村普請所相済候

同廿七日 晴天暮かた々白雨にて潤

同廿八日 晴天

時枝氏今日引取

同廿九日 晴天七ツ時々降雨

仙七誓詞判形二付出津

一 河原弓削田村々訴状指出候二付、上弓多兵衛を以、八月二日入込可申段申遣ス

同晦日 晴天夕方々風立強し

今日金田村牛馬願祭礼参詣多し、今夕仙七引取

一 今夕々風立烈敷夜中九ツ時分々雨を催し神幸も直ニ還御也

一 新所ニおゐて俳諧之笠木興行、来客尤多し

八月朔日 明六ツ時分今風雨強南風ニテ屋祢・垣廻破損、野合田方早田通吹落し、中晩田も吹倒候、畠作秋粟類痛相見候、併大障は無之趣也

大風之容子御注進申上候

一時枝氏神幸為見届、昨夕香春迄出郡、今四ツ時入込也

一 今日遅々^カ角力興行願解相濟候

一 河原弓削田訴状之一件時枝氏申談、役頭へ御内意被申上候様相談候事

八月二日 晴天

一時枝氏今朝引取也

今日河原弓削田え入込、村方春以来博勞由藏義不届之段村方今申出候二付、御内意御窺申上候段申達、善五郎役儀指免、皆濟後御しらへ之上、利非御片付可被仰付段申渡

一 村方頭分之者共十人計召寄、訴状之趣二付皆濟後御しらへ可被仰付二付、相慎上納出精方申渡、善五郎退役之段申渡

一 今日朔日朝之大風ニテ野合之様子并風転木風転家之義御注進申上候

一 今夕方宮尾村へ入込止宿

八月三日 晴天

今日宮尾村百姓召寄、無主地仕居出精之段吹藏申聞、樽肴遣之、賑々敷申付候

一 船方運賃米御願書付之義二付上野氏寄合之事申来候二付、宮尾今直二成竹類助方へ参出会、今夕書付を仕立御代官様へ指出候、夫今帰宅

八月四日 晴天

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

今日糸田迄罷出、新助止宿

一 今夕七郎兵衛・助七招呼、追出米割方相極候

同五日 前夕九ツ時分降雨、終日降続川水も相増候

一 今朝糸田三ヶ村高代弁米追出米極方村方え申渡、夫分弓削田え参七郎兵衛方止宿

同六日 晴天

宮尾へ参、方頭代忠助へ申付、村方え秋田之義申付、後藤寺へ参、河原弓削田え止宿

八月七日 晴天

河原弓削田村方召寄、秋田之義申付、宮床・上糸田川成見分、引取

一 今日仙七上野へ参

同八日 晴天

今日親仁様不快ニ付伊方文哉相招キ薬用

同九日 晴天

同十日 晴天

今日木駅え迎ひ遣し、三省老相招く、文哉も相招キ三省老夜ニ入来臨薬用

同十一日 晴天

御法式御書附、猪膝分受取写取、本書は上野へ遣し写村々指廻候

一 今日三省逗留

同十二日 晴天

今日三省引取

一金田村惣反甫見分

一 庄屋中、親仁見舞ニ來臨

八月十三日 晴天

今日大くま村并河原弓普請ニ付仙七參

一金田村川成見分ニ付罷越、川成引戻有之二付、改直し申付ル

同十四日 晴天

今日も大熊普請相仕廻不申候

一 糸田浦筋鼠池迄野相見分候所、急ニ時枝氏出郡ニて糸田迄被參、追々被申越候ニ付、鼠池今糸田之引取対面、夫之引取

一 村々壺番早田德米割申触候

同十五日 晴天

同十六日 晴天

同十七日 小雨降

今日御役頭方御出郡ニ付香春へ罷出筈之処、助七病氣ニ付吉兵衛殿計被參候

一 船板願書指出

八月十八日 晴天

今日川成見分

一金田村道作り

同十九日 小雨降

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

今日御検見方御出郡ニ付香春へ罷出ル

一 式番早田御帳極ル

同廿日 雨天

早田目六下地調ニ掛ル

同廿一日 晴天

早田目録無滞相済香春分引取

八月廿二日 晴天

今日新成成場見分ニ出

同廿三日 晴天昼後降雨

今日御検見方御代官様ノ川成御見分、宮床・上糸田、拙宅御休香春御引取

同廿四日

同廿五日

今日中田帳相極ル

同廿六日 晴天

今日中田御目六相調香春へ相逗り、御免目六・勘定帳下地相極候

同廿七日 晴天

今朝香春分引取

同廿八日 晴天

今日急ニ御奉行様御出郡之由昨夕鶏鳴頃南野氏分御役頭分被仰下候ニ付、早朝香春へ罷出、直ニ金辺峠之出

ル

一 御免相之義以之外六ヶ敷、今夕終夜御多般并御検見を段々御宮御座候得共、御引受無之御免相濟不申候
八月廿九日 晴天

今日御奉行様赤池御藏御見分、上野皿山御見分、上野御昼休香春御引取

一 今夕糸田村久五郎、当春難洪之もの共掾方并兼て作方実正之段書付にて申上候

一 今夕御免相漸相濟

一 差上米七百石古拝借之内三百石御取立列秋被仰付候、六百石も御取立也

九月朔日 晴天

今朝糸田久五郎へ御逢被下候、御出立之節町にて御暇申上

一 今日仲津郡之様築城郡へ御移被成候

一 御代官御引取迄相休候、古拝借之義段々御心遣被下、築城へ御人遣被下候に付諸評儀に付香春へ逗留

九月二日 晴天

今日諸評儀に付香春へ相逗り候て夕方引取

同三日 晴天

今日糸田村御褒美米受取

一 上野氏之下糸田馬掛合之義申遣又

同四日 晴天

村々庄屋中召寄用談

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

同五日 曇天小雨降

同六日 雨天

取立帳下地二掛ル

一 今日弓削田万吉召寄元服をさせ候て金田村庄屋役申付候、時枝氏立合申付候事、右二付召呼候者共弁城村
文内、上弓削田村太兵衛、金田村方頭四人、五郎兵衛共二召寄候

同七日 晴天

時枝氏同道、御代官様え日延御断ニ出ル、深更引取

一 曾七召連御代官様・御山奉行所へ出ル

九月八日 晴天

今日徳米弘通面取合、仙七香春え出ル

一 取立帳下地二掛ル

同九日 雨天

今日庄屋中召寄、取立帳二掛ル

同十日 晴天

今日取立帳成就、庄屋え引合申渡

一 大熊村善兵衛え馬苦勞頭取申付ル

同十一日 晴天

今日御取立帳清書相調御代官様え出ヌ

同十二日

同十三日

今日糸田え入込、村々帳面しらへ二掛ル

同十四日

右同断

同十五日

右同断

同十六日

右同断

同十七日 晴天

今日糸田え香春へ出勤、村々切符押切り申受候

一 今日、金田・大くま・宮床・河原弓・鼠池・見立通面も上ケ、押切申受候

同十八日 晴天

今日宮座ニ参ル

一 今日仙七香春へ出ル、今夕夜半上糸田帳面出来、香春へ出ス

同十九日 晴天

今日残村々取合通押切申受候

一切符渡、金田・宮床・河原弓相仕舞、宮尾迄参止宿

同廿日 曇天

今日、宮尾・後藤寺切符渡引取

同廿一日 曇天

同廿二日 曇天

今日、直方嘉助并下ノ関油屋十三郎内ノ者参、お琴一件を相頼候

同廿三日 小雨降

同廿四日

今日香春へ出勤

同廿五日

同廿六日 雨天

同廿七日 晴天

同廿八日 晴天清和之氣候

今日式番払通面済

一 大くま・宮床・後藤寺三ヶ村皆済ニ付香春へ出勤

同廿九日 晴天右同

今日夕三番取納、十月五日迄也

同晦日 晴天右同

今日夕糸田村へ入込

十月朔日 晴天右同

糸田村善次郎方え在勤、村方米調へ

同二日 晴天右同

糸田へ逗留夕方宿へかへる

同三日 晴天右同

今日糸田へ入込

同四日 晴天右同

今日糸田村三番取納取合、糸田分引取

一 今夕方御雑生方御立寄ニ付酒を出し饗応、御人数上下六人寄持夫兩人

十月五日 雨天大雨にて川水増

今日取納定日ニ付、雨天ながら香春へ罷出候支度にて楠川端迄参、気分不相勝引取、飛脚にて村々様子申出ル

同六日 曇天

今日御藏御取納無之ニ付飛脚にて様子申出ル

一 今日庄屋中召寄皆済前しらへ方申談候

一 時枝氏、仙七も引取

同七日 曇天

今日少々御藏払あり

同八日 晴天

今日香春へ出勤、鼠池村皆済

同九日 晴天

豊前小倉藩領田川郡金田手永大庄屋の「日記」

今日、上糸田村え皆済しらへ二付入込

一今日村々三番取納相済

一見立村皆済

十月十日 晴天

今日糸田出立河原弓え入込皆済しらへ相済、鶏鳴頃宮尾村え入込止宿

同十一日 晴天

宮尾皆済前しらへ逗留

同十二日 九ツ時分夕時雨降七ツ時分夕大雨にて夜中霰降風雨烈敷

今日河原弓之様、糸田之様引取

同十三日 晴天

同十四日 晴天

今日上弓削田相済

同十四日^五 晴天

今日下弓削田・上糸田・中糸田・河原弓皆済

同十六日 寒天雪少々降

今日御代官赤池御藏え御出、御帰かけ御立寄御昼休被成、夜二入御引取

同十七日 晴天寒気

十月十八日 晴天

今日宮尾・下糸田皆済

一 今日川江常陸介殿御出被成候

同十九日 晴天

今日惣皆濟目出度御注進申上候

一 宮尾大宮司安駄にて帰ス、村分三人雇立、賃札拾匁相渡、外下人壹人相添遣ス

一 今日香春え三役相揃罷出候

同廿日 晴天

同廿一日

同廿二日

同廿三日

同廿四日 晴天

同廿五日 晴天

今日御郡中惣皆濟ニ付早朝香春え出勤、目出度御目錄相整、御代官所分御祝儀あり、香春へ止宿

一 上野氏分仙七え沙汰有之候一義、中村氏え相頼、御代官様え御尋申上被下候様相頼候処、中村氏存念にて

仙七え被相尋、仙七分上野氏え尋出候筈也

十月廿六日 今朝晴天五ツ半時分雪降風寒冷之天気ニ成

一 今日御代官様御引取、両仲真共二子共役三人之祝儀ニ付、糶郡屋え寄合、今夕博多屋為右衛門方え止宿

同廿七日 晴天寒氣甚敷

今日引取上野栄助同道にてかへる

同廿八日

同廿九日

十一月朔日 夜内雨天四ツ過分快晴

一 今日御役頭御出郡、小森ニテ掛御目候

一 今日御□成御礼惣代出津

一 犬兵庫様御奉行様御宅え御礼ニ罷出相勤

十一月二日 寒天八ツ過分大雪降、帰路難渋夕方香春へ着

一 御役頭え罷出掛御目、夫分南野氏米屋次郎左衛門方ニて出会、深更引取

同三日 寒天風雨強し

御役頭御廻村相止、村々庄屋中香春へ被招呼御逢被成候、仙七出勤

一 香春町え百石、役頭分借立米被仰付候

同四日 雨天

今日役頭御引取

一 今日村々庄屋中招呼時枝氏相招キ皆済祝儀庄屋中分樽肴持参

同五日 雨天

庄屋中今朝迄逗り専内え心附あり

一 時枝氏今日小倉引取

十一月十日 晴天

今日勘定話小倉出津、仲真一同出、七郎兵衛参

同十一日 晴天

今日御勘定帳諸証文共出、市太郎出津

同十二日

同十三日

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

同廿二日

同廿三日

同廿四日 晴天

同廿五日 晴天

同廿六日 晴天

今日仲真中一同引取

同廿七日

同廿八日 晴天

今日御鷹方上下八人御昼休

一 庄屋中寄合御用申談ル

同廿九日

大不孝

同晦日

忌中

十二月朔日今八日迄忌中

但七日忌御免被仰付候御状遅く参着

八日今出勤

同九日 返号算用

同十日 右同断

同十一日

村々庄屋中召寄、返号余札仕渡

但帳面急ニ仕立候故得と再見不相成ニ付、極意仕詰は正月十一日ニ仕渡可申段申達ル

同十二日

同十三日 晴天

今日唯助田地之儀ニ付上野市郎兵衛同道、小倉へ罷出

一 庄屋七郎兵衛金田村方頭忠助・重三郎、村方帳面持參、小倉え罷出ル

同十四日 雪降

今日御代官様御宅ニ御郡様御立合之上唯助田地之儀御尋被成候ニ付、金田村方頭存寄之義相しらへ一通り申上ル

同十五日 雪降

今日小倉今市郎兵衛同道金田え引取

同十六日

市郎兵衛唯助存寄相しらへ小倉へ御注進申上ル、飛脚夕方□出ル

同十七日

今夕深更飛脚帰ル

同十八日

今日市郎兵衛被參唯助手前吟味之上願書被差出候ニ付、夕方小倉え飛脚差出ス

同十九日

今日深更飛脚帰、御返答なし

同廿日

同廿一日

同廿二日

同廿三日

同廿四日

同廿五日

同廿六日

今夕四つ過頃時枝吉兵衛殿来着

同廿七日

今日御奉行様御書付ヲ以、金田村唯助其外御調へかゝり之者共御片付被仰付候

一 今日新入美濃守来ル